

令和 7 年度

総合教育会議 会議録

曾於市

令和7年度 総合教育会議

日 時	令和7年10月10日（金）午前10時00分～11時05分
場 所	曾於市役所本庁南棟2階 防災対策室A
出席者	竹田 正博 市長 今村 浩次 副市長 中村 涼一 教育長 川畠 和徳 教育委員 地主園 栄美子 教育委員 長野 かおり 教育委員 比良 淳也 教育委員 事務局 総務課長 総務課長補佐 総務課総務法制行革係 1人 教育委員会 教育総務課長 学校教育課長 生涯学習課長 教育総務課長補佐兼総務係長 学校教育課指導係長 生涯学習課長補佐兼社会教育係長 生涯学習課長補佐兼文化財係長
会順	審議の結果等
1 開会	開会時刻 午前10時00分 進行：総務課長
2 市長あいさつ	◎市長
3 協議事項 (1) 教育委員会に関連する市長の所信表明について	◎市長 私の所信表明の中で、教育委員会に関連する子育て支援、スポーツ振興文化の継承、そういう具体的な内容を説明をということで、まず子育て支援につきましては、私も選挙の公約として掲げさせていただいたのが小学生・中学生の入学時にやはり親御さんたちの負担が大きいであろうということがありまして、入学おめでとう祝金というのを創設したいと思っているところです。 これにつきましては、今小学校に入学をされる際ランドセル等の

金額もかなり高くなっている状況で、私もちょうど今、小学校1年生の孫がいるんですけど、10万弱でしたので、かなり大変だらうなと思っているところです。それから中学生になりますと制服の購入がございますので、そういういた負担軽減を考えており、それから教材について、支援ができればと思っておりまして、これにつきましては額的にはまだ決めておりませんけれども、実施につきましても次年度からできるかどうか、財政状況を見ながらという考え方でおりますので、そういういた形で取り組みたいと思っております。

それから、教育のやはり高度化支援というのも考えておりました。今曾於高校の募集人員が減ってきてているという部分もありまして、授業以外の部分で、外部からの講師を入れて、教育の質を高めていくとか、そういういた部分ができないかなと思っております。これはまだ具体的な部分では何も想定はしておりませんので、高校との協議になるかと思っているところです。

スポーツの振興としましては、今、中学校の部活動が地域移行型になってきております。学校の先生方の働き方改革ということもありますが、やはり部活動の活動が地域移行型になってくると、その指導者であったり、保護者の方々であったり、そこに携わっている子どもたちであったり、その環境整備をちゃんとしてあげたほうがいいのかなと思っているところです。スポーツ・文化含めて、体制作り・財政的な手立てをしてあげたほうがいいんじゃないかと思っているところです。そして、それがアスリート育成という形につながっていけばなと思っております。あと、文化の継承につきましては、郷土芸能というのがいろんなところにございます。例えば、財部の七村であったり、恒吉であったり、太鼓踊りとか、今、高齢者の方々がなかなか、それを継続していけない、そして継承していく体制づくりがうまくいっていない部分もあると思います。小学校と連携しながら継承していくような取り組みができるかと思ってるところです。また中学生、高校生が提案をしてくれる活動に対して青少年提案型予算というものを組みたいと思っております。提案していただいた部分に対して、審査会を設けないといけないですが、青少年の活動を支えていきたいということで、提案型予算も組みたいなと思っているところです。

説明をいたしましたけれども、皆様方から1項目ずつご質問なりご協議いただければと思っております。

◎川畠委員

市長がおっしゃったように、子どもたちが帰ってきたくなる町というスローガンを挙げられているんですが、それにはやはり、小中高の教育の質あるいはPRなど、曾於市は幼、小中高校まで揃ってい

て、教育についてはもう何も心配ないと、そういうところまで引き上げていかなければならない。そのように私も思っているところです。

優秀な若者にもう一回帰ってきてもらう、そのための方策として奨学金への支援も考えられるのではないかと思います。

中高生の提案を生かすというのはすごくいいなと思いました。こども議会で子供たちが提案をするんですけども、なかなかそれが実践されない、実行されないという面がありますので、中高生だったら意外と中高生にとっても勉強になるし、そういう提案型の機会を設けてもらうと、中高生は特に燃えていくんじゃないかなと思います。

◎比良委員

スポーツ振興のところで言われた、学校の先生方の働き方改革で、なかなか思うように部活動の継続ができないというところがあるんですけど、先ほど市長が言われた、学校の先生方の手厚い財政的な支援をしてくれるというのがものすごくありがたいなと思って、先生方のその意欲を出すためにやっぱり財政的な、その手当てが必要じゃないかなと思います。

校長先生や他の先生方も成果がでればそれに対する手当てをしてもらえるような仕組みがうまくできればありがたいなと思います。

◎長野委員

市長が言われた子どもたちが帰ってきたくなる町というのは素晴らしいと思います。また、帰ってくるだけじゃなくて、他からもある街は非常にいいので、ぜひ行きたいみたいになるともっといいなと思います。そのためにはもちろん財政的な支援、ハード的なお金・制服の支援も大事だが、例えば曾於市にきたら小学校卒業する頃には、日常の英会話ぐらいならできるようになる、みたいなところがあつたらいいなと思いますので、その辺を高めていけたらいいなと思います。芸術でもそうですし、スポーツでもいいんですけど、選んでもらえるような街になつたらもっといいなと思います。

◎地主園委員

子どもが5人おり、中学生が1人、高校生が2人、地元にいるんですけれども、その子たちにどうしたら、曾於市がもっと子どもたちが賑わうか聞くと、「プリクラの機械を置けばいいんじゃないかな」、「みんな都城とか、鹿児島市内に撮りに行く」など、それが一番普段の率直な意見で、結局遊ぶ場所がないのが一番なところみたいです。公園とかで遊んだりしてるんですけど熱中症とかもあるのでそ

	<p>うなると何か1つ過ごせる場所があつたらいいんじゃないかと思います。そういう今の中高生の意見も、ちょっと聞いてもらえる機会があつたら、本当にいいのかなと思うところです。お祝い金というところは、子育て世帯にとってはありがたいなと思うところです。</p> <p>◎市長</p> <p>いろいろご意見いただきありがとうございます。</p> <p>この提案型の予算というのはできれば早い段階で行いたいと思っているところです。</p> <p>スポーツ関係は、指導者、学校の先生方、外部の方であつたり、携わりやすい環境を作らないといけないのかなと思ったところです。</p> <p>それからソフトの充実ということでおっしゃられましたので、特色のある部分という形でまた研究させていただきたいと思います。</p> <p>子どもたちが帰ってきたくなるというのは、親の方々がやはり、帰ってきたら住みやすいよねという部分、今の僕が育ったところは面白そうだろうという期待感、そういうものがなければなかなか帰ってきていただけないかなと思います。それにまた付随のがやはり仕事、就職面であつたり、一体となって進めていかないと、なかなか帰ってきていただけないのかなという思いはしているところです。</p> <p>子どもたちの遊び場については、空き店舗等も結構ありますし、末吉で見ますとタイヨーさんがあったところが今全く活用されていないので、こういったところが集えるような場所になればいいのではないかと思います。図書館の利用も、例えばフリーWi-Fi を使えば、子どもたちも集まってこれるのかなと思うところです。</p> <p>◎市長</p> <p>2番目の奨学金の取り組みについて、説明をお願いします。</p> <p>◎教育総務課長</p> <p>給付型ではなく奨学金を免除する制度がありますし、これについて市長の考え方をお聞きしたいと思います。</p> <p>自治体によって条件は異なるんですけれども、ほとんどの自治体は返還に対する免除の制度を設けておりまして、実施しているところです。この奨学金は、曾於市の奨学金だけでなく日本奨学金機構とか、他の関係団体から借りた奨学金を含むすべての奨学金が対象です。それに対する返還に関して、条件があるんですけれども、地元企業への就職もしくは地元に住所を置くという条件をつけまし</p>
--	--

て、そういう方々につきましては、その部分を助成します。財源について、国は特別交付税を交付しますという仕組みですので、地方公共団体の財政的な負担というのは、少なくて済むということです。

曾於市として検討していただければならないのは、今、奨学金としては教育委員会で取り組んでいると思いますけれども、定住とか地元企業への就職となると、なかなか教育委員会で把握できないのかなというところもございますので、これについて市長の方で取り組む考えがあれば来年度以降ご検討いただけたらと思います。

◎市長

資料を見てもお分かりのとおり、県内のほとんどの市が取り組まれております。曾於市も取り組まないといけないだろうというのが基本的な私の考えです。

また、インターン制度をちょっと使いたいなと思っているところです。企業と行政がその経費を負担しながら、インターン制度で、研修していただいて、それを就職につなげていくという形が取れなかなと思っているところです。

ネックになるのは、都会と違う賃金格差なのかなというふうには思っており、そういったところをクリアしていかないといけない部分もあると思います。ただ、インターンなどの経験をすることで、やはり地元愛というのを持っていただければいいなと思っております。

◎川畠委員

私は、免除ではなくて、返還支援型を考えていただけたらなと思います。他の奨学金を借りている人も、曾於市にＩターンしてきた場合は、その奨学金の返済の一部を支援するという形の方がいいのではないかなと思います。奨学金を申請して進学をする人というのは、意欲がある人なので、そういった人を、曾於市の奨学金を借りている人だけではなくて、他の奨学金を借りているけど、その方も曾於市に来たらそれを支援しますという形の支援型の奨学金を考えていただけたらなと思います。行政の方でいろんなそういったものを活用して、ぜひ優秀な若者を曾於市の中に入れていく形でやっていただけたらなと思います。

◎市長

国等の奨学金の、いわゆる返還金の支援や他の市町がどのような形でそういったことをしているのか、研究させていただきたいと思

	<p>います。</p> <p>◎市長</p> <p>3番目でございます。末吉小学校を先進的学びの学校にするための施策について説明をお願いします。</p> <p>◎教育総務課長</p> <p>今回の末吉小学校については、教室に壁のないオープンスペースを組み入れた学校でございます。県内では、あまり例がないということで、先進的な取組事例を学校が完成する2、3年の間に先生方に学んでいただいて、教室での活動をうまくいくような研修をしていきたいと思っております。学校としても今後は先進的なIT企業とコラボすることで、実質的な学習に取り組むのではないかということを書かせていただきました。小学校に英語を取り入れて数年たちますが、なかなか目に見える知識が得られないので、話せたりということが一番重要ではないかということで、話せる外国語を末吉小学校で、特に先生も一緒になんすけれども、実施できないかということでございます。</p> <p>また、先生方、子どもたちにとっても、外から来た方々の意見を聞くことが非常に重要なところだと思います。また教育委員会でもこれ以外にも、末吉小学校で取り組むべきことについて、この検討をしていきたいと思っております。</p> <p>◎教育長</p> <p>県内、九州内でもあまり例のない校舎でございます。ある意味、これから教育の形を考えた校舎を設計の方にもお願いしていますので、そうなると当然ソフト面・中身をどうするかということが大事になってくると思っております。教育委員会としては、当然ハーフ面の次はソフト面ですが、今から取り掛かっていかないと、なかなか難しいものもございます。校舎改築に合わせて、この学校を特色ある学校にするために、先生たちに頑張っていただきたいといけないので、我々もできる限りのことはやっていきたいと思います。ぜひ財政的な支援をお願いしたいなと思っております。</p> <p>◎市長</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>末吉小学校について、校舎が新しくなってやはり先進的な学びの学校にすることは非常にいい取り組みだなと思っております。オープンスペースをいかに学校の中だけではなくて地域であったりとか、いろんな方々との接する機会であったり、学校教育だけでは</p>
--	---

	<p>なくて社会的な教育、そういうしたものも取り入れていけばと思います。</p> <p>そして、やはりこれから世代というのは、IT、ICT、そういうものも必要であろうと思いますし、といった意味では、外部からの講師であったりとか、子どもたちというのは、それぞれ個人個人がいろんな分野に興味を持っているでしょうし、将来の夢っていうのも、バラエティに富んでるなというのが私の印象でありますので、やはりそういった興味を引けるような講師であったり、といった方々のお話を聞いたりとか、非常に大事だと思っております。</p>
(4) 曽於高校について	<p>◎市長</p> <p>次の曾於高校についてですが、説明をお願いします。</p>
	<p>◎教育総務課長</p> <p>大学進学祝金について、他の自治体でも取り組んでいたんですけども、いい事例ではないというようなこともあります。保護者等にアンケートを取りまして、曾於高校を選ぶことに関して、その祝金はあまり基準になっていないということが判明いたしました。在校生に対する支援をもう少し実践的にやっていこうということで、それから予備校の通信教育とか、全国的な学習指導を取り組みました。最近では、大学との交流ということで、慶應大学との交流を3年間実施してきました。曾於高校としては一定の実績を出していただき、国立大学に関しては、当初の1桁だったものが、ここ2、3年、2桁、文理科に関しては8割以上の方が国立大学に進んでいるというような状況が現在発生しています。</p>
	<p>◎市長</p> <p>曾於高校だけではないんですけども、非常に今、定員割れしている状況でございます。私立の高校というのは、定員を超えて応募があるという状況になっているので親御さんにとっても、子どもたちにとっても、それだけの魅力があるんだろうなと思います。特色のある学校でないと、なかなか子どもたちはその方向を選んでいただけないのではないかと思いますので、曾於高校との連携を深めていかないといけないのかなと思っています。密に行政と高校との定例会のようなものができればいいのかなというふうに思っているところです。</p>
	<p>◎比良委員</p> <p>今曾於市にはスクラブがあるので、そういったところの学生との交流や獣医さんへの道など連携をしておけば、面白く反応するので</p>

はないか、獣医学部に行ける道ができればもっと学生が増えるんではないかと思います。

◎副市長

9月1日県の教育長等がスクラブに来ていただきまして、そのとき、7、8人実習生が来ていたんですけれども、県内の県立高校とスクラブとの間でいろんな交流、そこに学生を研修などで勉強にきていただくなど県の教育委員会で取り組んでもらえるという話も聞いております。また来週県の教育長に私がお会いすることになっておりますので、そういうところもまた話もできればいいなと思っております。

◎地主園委員

曾於高校は、県内唯一、5学科受講されるところのアピールを本当にできるところだと思っています。

本当に今の中学生は、高校の授業が終わった後に、遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったり、どこか立ち寄るところのあるなしで選ぶので、他市の学校を選んでいる場合もあると思います。また、先生方にも危機感をもって指導等に取り組んでもらいたいですし、定員割れをしているので地元への発信をしてもらえたならと思います。

総合的に曾於高校でもできることをもっと増やしてもらったりして、学校を存続するために、市での支援もお願いしたいですし、学校にもお願いしたいと思います。

◎市長

高校の近くに、そういった子どもたちが楽しめるような場所も必要なのかなと、子どもたちの感覚として新たな感覚でございます。高校とはまた、会議や校長先生たちと話をさせていただきたいと思います。

(2) その他

—

4 閉 会

閉会時刻 午後 11 時 05 分